

II 学校教育

1. 教育指導

(1) 平成22年度 学校教育の指針

立川市教育委員会の教育目標、基本方針並びに施策の方向を踏まえるとともに、学習指導要領改訂に伴う移行措置期間の基本方針に基づき、生きる力の育成の基盤となる確かな学力と豊かな心をはぐくむ教育の一層の充実を図ることが大切である。そのために、「確かな力 やさしい心 個を輝かせ 社会のために」という教育目標・方針等に基づく学校教育の指針を示す。各学校においては、市の目標・方針等並びに本指針を生かして、学校の教育目標や基本方針、指導の重点等を編成し、創意ある学校経営を推進する。

【確かな力】

1 確かな力の育成を図る教育の推進（学習指導と健康教育の一層の充実）

ア 確かな力を育成するための特色ある教育課程の編成

児童・生徒の実態に基づき作成した授業改善推進プランを生かし、十分な授業時数の確保や適正な授業内容の実施を行うとともに、土曜日や長期休業日等を活用した学校としての組織を生かした弾力的で特色ある教育課程を編成する。

イ 習熟度別の少人数指導など個に応じた指導による基礎・基本の確実な定着と知識・技能の習得
体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れた指導を行い、主体的な学びを育てて個性を伸ばし、自ら学び自ら考える力や学ぶ意欲を育成する。また、習熟度別の少人数指導を適切に実施するとともに、発展的な学習・補充的な学習等により個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と知識・技能の習得を図る。

ウ 言語環境の整備と言語活動の充実

児童・生徒の思考力、判断力、表現力をはぐくむために、知識及び技能の活用を図る学習や探究活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童・生徒の言語活動の充実を図る。

エ OJTを生かした教員の資質向上

保護者や市民の願いを受け止め、児童・生徒の可能性を最大限に伸ばすために、週ごとの指導計画等を活用して学習のねらいを明確にした日々の授業の積み重ねを大切にすることを通して、教員の指導力の一層の向上を図る。そのために、校内研究や校内研修、教育委員会主催の各種研修等に積極的に取り組み、OJTを意図的・計画的に実施するなどして、指導方法や教材・教具、評価の一層の工夫を図る。

オ 読書活動と情報教育の推進

知識を学び、感性を磨き、想像力を豊かなものにするために、市民と連携した読書活動を奨励するとともに、学校図書館や学校図書館支援指導員等の利活用に基づく読書活動を推進

する。また、コンピュータなどの情報機器に親しみ、情報モラルの向上と情報を適切に選択し活用する能力の育成を図る。

カ 小学校入学時の適応指導と幼・保・小・中の一貫した教育活動の充実

幼・保・小の連携を通して、小学校入学時に個別の支援を把握するとともに、学校での集団生活に適応できる指導を充実させる。また、小・中学校の連携教育活動を一層充実させ、小学校教育の成果や課題を踏まえ、小・中学校9年間を見通した小中一貫教育ができるようにする。

キ 健康づくりと学習の基盤づくりの充実

家庭との連携・協力を大切にして、学習の基盤となる食や睡眠などの生活習慣の育成・定着を図り、たくましく生きるための健康増進を図り体力を向上させるとともに、食育リーダーを中心に食育の推進を図る。

【やさしい心】

2 自他の生命を尊重し、やさしい心をはぐくむ教育の充実（人権教育、道徳教育の一層の充実）

ア 基本的人権の尊重と人権教育の一層の推進

児童・生徒に人権尊重の理念を正しく理解させ、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが実際の態度や行動に表れるようにする。そのために、人権教育の全体計画や年間指導計画に基づき、全教育活動を通じて人権教育を一層推進するとともに、小中連携した人権教育を進める。

アー2 いじめのない豊かな人間関係の育成と道徳教育の充実

家庭との連携を密にし、かかわりあい、認め合い、支え合いを大切にして、いじめのない豊かな人間関係の育成に努める。そのために、道徳の授業を適正に実施するとともに、道徳教育推進教師を中心として、教育活動全体を通して道徳教育の充実を図る。また、社会奉仕体験活動等を通して自己有用感を高め、生命を大切にするなどの豊かな心の育成に努める。

イ 問題行動の早期発見・早期対応と教育相談の充実

信頼関係に基づいた教育の徹底を図り、家庭・地域等との連携を緊密にして毅然とした生活指導体制を確立し、問題行動の早期発見・早期対応と未然防止に努める。いじめや不登校、学級の荒れ等の解消を目指し、校内での指導体制を整えるとともに、学校教育サポートセンターとの連携や学校・学級特別指導員の活用、スクールカウンセラーやハートフルフレンド等の教育相談活動を生かし、組織的かつ継続的な指導を充実させる。

ウ 安全教育の徹底と事故防止

交通安全、防災、不審者及び不審電話への対応など、児童・生徒の安全の徹底を図るとともに、児童・生徒の視点に立った地域安全マップを作成したり、具体的な対処法を学習したりする等の体験的な活動を取り入れた実践的指導を行う。施設・設備の安全管理に努めると

ともに、情報機器などにおける個人情報の適正な管理の習慣化を図り、事故防止の徹底に努める。

【個を輝かせ】

3 よさを伸ばし、個を輝かせる教育の充実

ア 一人一人の児童・生徒のニーズに合った教育の充実

教育相談員、学校・学級特別指導員、特別支援教育支援員、通訳協力員、学生支援員、インターン学生等の活用や個別指導計画等の作成、巡回相談や巡回指導等の活用により、支援を必要とする児童・生徒や外国から来た児童・生徒の教育的ニーズに応じた適切な指導を心がける。適応指導教室等との連携や登校支援員の活用、個別適応計画書の作成等を通して、不登校児童・生徒の学校不適応に応じた教育の充実を図る。また、交流教育を積極的に推進し、障害や外国への正しい認識を育成し、共に生きる意識と態度を育てる。

イ 国際理解教育の推進

日本の文化や伝統についての理解や愛情を深め、異なる文化や伝統を尊重する教育を充実するとともに、多文化共生への理解を深める。また、外国人英語指導員等の活用により、国際社会に生きる日本人としての自覚を促し、表現力及びコミュニケーション能力を養い、進んで国際社会に参加、協力する能力と態度を養う。

ウ キャリア教育の充実・推進

児童・生徒自身が自らの生き方を考え、自らの能力や適性を正しく理解し、進路を選択することができるようにする。そのために、職場訪問や職場体験学習等を積極的に行い、一人一人の興味・関心、能力、適性等を尊重したキャリア教育を計画的に推進し、発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観をはぐくむ。

エ クラブ活動・部活動等の充実と推進

クラブ活動や部活動の実施による学校生活の充実を図り、生涯にわたり、スポーツ、文化、科学、芸術に親しんだり追究したりする資質や能力を高める。また、学年や学級を超えてはぐくまれる人間関係を通して、自主性、協調性、責任感や連帯感等を育て、生きる力を培う。

オ 市民力との協働を生かしての特色ある学校づくりの推進

学習支援者や市民、学生のボランティアの活用等により、保護者や地域社会の教育への参画と開かれた学校づくり等を推進するとともに、学校、家庭、地域の相互の連携・協力を生かした教育を推進する。そして、市民と連携して特色ある学校づくりを推進する。

【社会のために】

4 生き方を考え、社会のために役立つとする意識をはぐくむ教育の充実

ア 家庭や地域と協力しての社会性の育成

家庭と連携して、集団生活や社会生活のルールやマナーを身に付け、権利と義務、自由と責任についての認識を深め、規範意識を醸成し公共心を育成する。また、多様な人々との交流を通して、豊かな社会性ととも、自らの生き方を考えるような教育を充実させる。

イ 体験的な活動を生かして社会に貢献する精神や生き方を考える力、実践力の育成

総合的な学習の時間等を組織的、計画的に実施し、地域の特色を生かして市民と連携しての勤労生産的な活動、自然体験や福祉体験、ボランティア体験、育児体験、環境教育、ものづくりなどを充実させ、体験を通して社会に貢献する精神をはぐくみ、自ら考える力や実践力を育成する。

ウ 郷土意識の育成

郷土のすぐれた文化や伝統を大切に、すすんで地域の行事や活動に参加するとともに、学校及び地域環境の美化活動に努め、郷土や地域を愛する心情や態度を養う。

エ 自己評価や学校関係者評価、学校評議員制度等を生かしての開かれた学校づくりの推進

家庭や地域社会と学校とが信頼で結ばれ、社会全体で子どもを見守り、教えはぐくむ体制づくりを目指す。そのために、学校経営計画を周知するとともに、学校評議員制度や学校評価（自己評価、学校関係者評価等）を学校改善に生かす。また、授業公開や立川教育フォーラム、人権教育推進イベント等を実施し、市民との連携を通して、保護者や地域社会の教育への参画と開かれた学校づくりを推進する。

(2) 平成22年度学校別教育目標

①小学校

学校名	教育目標	学校名	教育目標
第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え行動する子 ・心豊かで思いやりのある子 ・体をきたえ元気な子 	けやき台小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子の育成 ・よく考える子の育成 ・たくましい子の育成
第二小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で明るい子 ・進んで学習する子 ・心豊かで思いやりのある子 	西砂小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子ども ・自分の考えをもつ子ども ・健康で明るい子ども
第三小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・健康でたくましい子 ・思いやりのある子 ・よく考え実行する子 	南砂小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な子 ・考える子 ・思いやる子 ・がんばる子
第四小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともにすこやかな子ども ・根気強くやりぬく子ども ・よく考えくふうする子ども ・なかよく助け合う子ども 	若葉小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・心豊かな子 ・自分の考えをもつ子 ・元気な子
第五小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子 ・考える子 ・元気な子 ・責任を果たす子 	幸小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え行う子ども ・ねばり強くやりぬく子ども ・なかよく力を合わせる子ども ・心と体をきたえる子ども
第六小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・考える子 ・思いやりのある子 ・元気な子 	松中小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしく ・かしこく ・たくましく
第七小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な子 ・考える子 ・ねばり強い子 ・思いやりのある子 	大山小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・健康で明るい子 ・よく考え進んで学習する子 ・心豊かに助け合う子
第八小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考え実行する子ども ・心豊かで思いやりのある子ども ・心も体もたくましい子ども 	柏小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考えて実行する子ども ・心豊かで思いやりのある子ども ・健康でたくましい子ども
第九小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子 ・自ら学ぶ子 ・たくましい子 	上砂川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考える子 ・心美しい子 ・たくましい子
第十小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかな子 ・思いやりのある子 ・考える子 	新生小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学びを創る子ども ・温かい人間関係を創る子ども ・たくましい気力 ・体力をつくる子ども

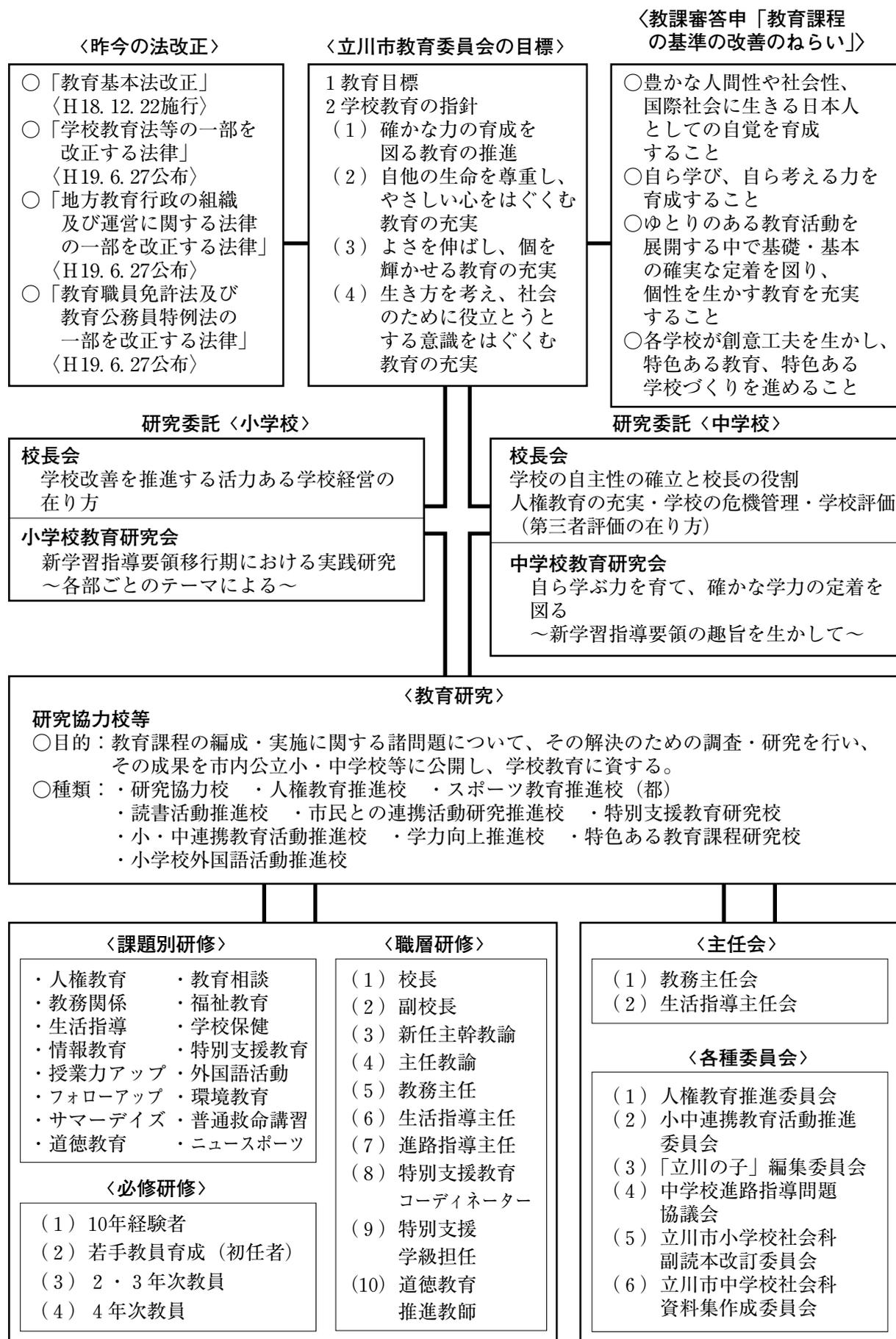
②中学校

学校名	教育目標
立川第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・知性を磨いて個性を伸ばそう ・敬愛の心を深めよい市民になろう ・勤労を愛し責任を果たそう
立川第二中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで学ぼう ・思いやりの心をもとう ・理想の実現に努めよう
立川第三中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな個性をもち、自主・自立・責任を重んじ、国際的な視野をもつ生徒を育成する ・規律と礼儀を重んじ、明朗で心身ともに健康な生徒を育成する ・勤労を重んじ、よく努力する生徒を育成する
立川第四中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な知性を磨く ・健やかな心と体をもつ ・自他を慈しみ共に生きる態度を養う
立川第五中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで勉強する人になろう ・あたたかい思いやりのある人になろう ・よいことは進んで実行する人になろう ・心身ともに健康な人になろう
立川第六中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで学ぶ人 ・責任を果たす人 ・健康で心豊かな人
立川第七中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・深く考え、すすんで学ぶ ・温かく思いやり、正しく行う ・たくましく鍛え、みずから創る
立川第八中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・命を大切に作る心をもつ人 ・知恵を身につけ活かせる人
立川第九中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・《やさしく》互いに人格を尊重し、協力する人になろう ・《かしこく》自ら求め自ら学び、道を切りひらく人になろう ・《たくましく》心身ともに健やかで、責任感のある人になろう

(3) 教職員研修

教職員が担当職務の遂行に必要な資質の向上を図るとともに、今後の学校教育にかかわる諸課題に対応するため、各種の研修や研究活動を推進しています。本年度も、東京都教育委員会や、市教育委員会の研究指定を、市内のすべての公立学校が受けて校内研修を進めています。また、授業力向上に向けた実践的な研修やライフステージに合わせた研修を、今年度も実施しています。

①平成22年度 立川市学校教育における「教育課程への対応」に関する事業について



②研修授業

ア 課題別研修・職層研修

研修会名	内 容
人 権 教 育	・人権教育の基本 ・人権教育の実際 (全2回)
生 活 指 導	・事例研究 (全1回)
道 徳 教 育	・道徳教育の実際 (全3回)
特 別 支 援 教 育	・特別支援教育についての基本的な理解にかかわる 研修等 (全7回)
教 育 相 談	・教育相談初級 (4回)・教育相談講演会 (1回) (全5回)
管 理 職 等	・新任校長－校長の役割と実際 ・新任副校長－副校長の役割と実際 ・新任主幹教諭研修－主幹教諭の役割と実際 ・教務主任、生活指導主任－市の教育課題の解決
授 業 力 ア ッ プ	・各教科等のモデル授業 (7回)・水泳指導、特別支 援教育について (2回) (全9回)
フ ォ ロ ー ア ッ プ	・2年次研修対象者－実践記録の報告・学習指導案 の作成等 (全1回)
達 人 に 学 ぶ サ マ ー デ イ ズ	・一般教養 (全4回)
外 国 語 活 動 研 修	・外国語活動の実際 (全6回)

イ 必修研修

研修会名	内 容
10年経験者研修	○校外における研修 ・学習指導 ・生活指導・進路指導 ・公務員としての資質向上 ○校内における研修 ・学習指導 ・生活指導、進路指導 ・公務員としての資質向上
若手教員育成研修 (初任者研修)	○教育センター等における研修 ○課題別研修 ○宿泊研修 ○校内における研修
2 年 次 研 修	○フォローアップ研修 ○研究発表会への参加 ○校内における研修
3 年 次 研 修	○授業力アップ研修 ○研究発表会への参加 ○校内における研修
4 年 次 研 修	○校内における研修

ウ 宿泊研修

研修会名	内 容
初 任 者 研 修	・立川市八ヶ岳山荘における研修 (2泊3日)

③教育研究事業

市教委の学校教育の指針「確かな力 やさしい心 個を輝かせ 社会のために」を実現するために実践研究を行い、その成果と課題について公開していきます。

ア 研究協力校

・平成21年度～22年度

学 校 名	研 究 主 題
第 六 小 学 校	瞳を輝かせて学ぶ子どもの育成 〔子どもが主体的に学び合う課題解決型の授業作りを通して〕
第 十 小 学 校	確かな学力を支える心と体の健康づくり 〔生き生きとかかわり合い、学び合う子どもたちを目指して〕
けやき台小学校	自分の考えを適切に表現できる児童の育成 〔多様な場面で生きてはたらく書く力を育てる〕
西 砂 小 学 校	意欲的に課題に取り組み、自分の力で解決する児童の育成 〔国語科・算数科・専科の指導を通して〕
幸 小 学 校	自分やみんなを大切にする子どもの育成 〔道徳の時間の充実を通して〕
柏 小 学 校	自ら学び、自ら考える児童の育成 〔算数的活動を通して考えることの楽しさを学び、進んで表現できる子どもをめざして〕
立川第四中学校	言語環境を整えて、学力の向上を図る 〔生徒の学習意欲を高めるために、教員ができること〕
立川第七中学校	言語活動を取り入れた指導法の工夫

・平成22年度～23年度

学 校 名	研 究 主 題
第 一 小 学 校	自ら考え、豊かに表現できる児童の育成 〔言語活動の充実をめざして〕
第 三 小 学 校	自らめあてをもって挑戦する児童の育成 〔体育科を通して〕
第 四 小 学 校	確かな学力をつけるための指導法の工夫 〔国語科・社会科を通して取得・活用の学びの姿を探る〕
第 五 小 学 校	学び合いの中からコミュニケーション能力を高める指導方法の工夫 〔国語科・言語活動を中心として〕
第 七 小 学 校	一人一人が自らの考えをもち、豊かに表現し合う児童の育成
南 砂 小 学 校	考える力・伝え合う力の育成をめざして 〔言語活動の充実を通して〕
若 葉 小 学 校	よりよい人間関係を築く教育活動の展開 〔国語科で培う言葉の力をもとにして〕
松 中 小 学 校	豊かなかかわりを通して、思いやりのある子の育成 〔聞き合い、伝え合う活動を通して〕
大 山 小 学 校	豊かな表現力の育成を目指して 〔授業力向上への取組〕

新 生 小 学 校	共に学び、一人一人が輝く授業の創造 〔国語力を働かせる言語活動の展開〕
立川第一中学校	学力向上 〔家庭学習を含めた学習習慣の確立と基礎学力の定着〕
立川第二中学校	「思考力・判断力・表現力」をはぐくむ授業改善 〔言語活動の充実を図る学習活動を通して〕
立川第三中学校	各教科における言語による表現活動の充実 〔新学習指導要領の目指すところの理解に向けて〕
立川第五中学校	自己肯定感を高める教育活動の推進 〔確かな学力の定着を図る指導の工夫〕
立川第六中学校	生徒一人一人の学びを深める 〔校内での支援体制を中心に（小・中の連携を通して）〕
立川第九中学校	学力向上 〔言語活動の充実〕

イ 学力向上推進校

・平成21年度～22年度

学 校 名	研 究 主 題
立川第七中学校	言語活動を取り入れた指導法の工夫

ウ 小学校外国語活動推進校

・平成22年度～23年度

学 校 名	研 究 主 題
第 八 小 学 校	自信をもって自分の思いを伝え合える子どもたち 〔小学校外国語活動を通して〕

エ 特別支援教育研究校

・平成21年度～22年度

学 校 名	研 究 主 題
第 二 小 学 校	障害の有無にかかわらず、特別な教育的ニーズに応える教育体制づくり 〔特別支援教育の視点を生かした授業づくり〕
立川第八中学校	すべての生徒の学びを保障するために 〔『学び合い』と（特別）支援教育の充実〕

オ 人権教育推進校

・平成22年度～23年度

学 校 名	研 究 主 題 等
上砂川小学校	自分と他者を大切にして学び合う児童の育成 〔教育相談の理論と技法を生かした人間関係づくりを中心として〕

カ 市民との連携活動研究推進校

・平成22年度～23年度

学校名	研究主題等
第九小学校	学習支援と「伝え合う力」を高める授業の研究

キ 国や都の研究校

○「自尊感情や自己肯定感を高める研究」研究協力校

学校名	研究主題等
立川第三中学校	生徒の自尊感情、自己肯定感を高める教育について (東京都教育委員会・教職員研修センター・慶応大学との研究協力)

ク 研究委託

新教育課程の実施に対応し、教科、領域等の指導内容や指導方法を研究主題とした研究委託をします。

グループ名	代表者名	研究主題
小学校校長会	操 木 豊 (第一小学校長)	学校改善を推進する活力がる学校経営の在り方
中学校校長会	嶋 崎 政 男 (立川第一中学校長)	学校の自主性の確立と校長の役割 人権教育の充実・学校の危機管理・学校評価 (第三者評価の在り方)
小学校教育研究会	高 藤 一 伸 (柏小学校長)	新学習指導要領移行期における実践研究 ～各部ごとのテーマによる～
中学校教育研究会	鈴 木 達 夫 (立川第八中学校長)	自ら学ぶ力を育て、確かな学力の定着を図る ～新学習指導要領の趣旨を生かして～

(4) 教育相談

いじめ・不登校など教育や子どもの心の問題が深刻化していますが、立川市教育委員会では教育相談室を設け、保護者や本人からの様々な相談に応じています。また、長期の不登校対策として適応指導教室を開設し、在籍校への復帰を目指して指導を行っています。

①教育相談室

教育相談室には、臨床心理士等の資格をもった相談員や教職経験豊かな相談員がおり、いじめや子育てなど様々な悩みに応じて、カウンセリングや遊戯療法、箱庭療法等による心理療法、助言などを行っています。また、来室が困難な方には、電話やファクシミリによる相談も受け付けており、相談に対する助言や情報提供等を行っています。

施設名	所在地	電話番号	開室日時
教育相談室	錦町3-12-25 (錦学習館2階)	TEL 527-6171 FAX 527-6905	月～土曜日 午前9時30分～午後5時

ア 平成21年度学齢別相談件数

・来室による相談回数 延べ 3,348回 電話による相談件数 延べ 217件

イ 平成21年度学齢別相談件数

区 分	件数	区 分	件数	区 分	人数
未就学幼児	40	小学4年～6年生	25	高校生以上	11
小学1年～3年生	70	中学生	60	その他	11

②適応指導教室

小学校の不登校児童のために適応指導教室「おおぞら」を、柏小学校内に開設しています。また、中学校の不登校生徒のために適応指導教室「たまがわ」を、たまがわ・みらいパークに開設しています。どちらの教室でも、個別や小集団での指導を行いながら、社会性を身に付け、再び在籍校で楽しい学校生活を送れるよう指導を行っています。

(平成22年5月1日現在)

学 級 名	所 在 地	電 話 番 号	開 設 年 月	学級数	児童・生徒数			教員数
					男	女	計	
小学校適応指導教室 「おおぞら」	柏町4-8-4 (柏小学校内)	534-0327	平. 10. 6	1	2	3	5	7
中学校適応指導教室 「たまがわ」	富士見町6-46-1 (たまがわ・みらいパーク)	523-4460	平. 17. 9	1	2	4	6	4

③ハートフルフレンドの派遣

不登校傾向の児童・生徒や不登校児童・生徒と触れ合い、相談相手、学習の支援者や遊び相手となることで、学校不適応や不登校等の未然防止と改善・解消を図るため、平成15年度から国の委託事業を受けて小学校4校から事業を始めています。毎年3校ずつ増やし、委託事業が終了した平成21年度より、全額市費ですべての小・中学校に配置し、相談体制を確立しています。

④スクールカウンセラーの配置

小・中学生の様々な悩み事の相談に応じ、いじめや不登校、暴力行為や学校不適応等の改善・解消を図るため、臨床心理士等の資格を有するスクールカウンセラーを小・中学校に配置し、カウンセリングを行っています。スクールカウンセラーは、東京都が雇用し、全中学校と小学校2校に週1回配置しています。

(5) 特別支援教育

①特別支援学級

障害があるために、通常の学級における教育では十分な教育効果が得ることのできない児童・生徒のために、立川市教育委員会では、小学校10校、中学校5校に特別支援学級を設置しています。これらの学級では、自らが障害を克服し、充実した学校生活を送れるように、児童・生徒一人一人の障害や発達の状況に合わせた適切な指導を行っているほか、指導用備品なども充実させるように努め、きめ細かな対応を図っています。学級は知的障害、情緒障害、難聴・言語障害に分けられており、このうち、情緒障害、難聴・言語障害学級については在籍校があり、一定時限のみ特別支援学級へ通う通級制度となっています。

ア 設置校

(平成22年5月1日現在)

学校名	学級名	種別	開設年月	学級数	児童・生徒数			教員数
					男	女	計	
第一小学校	あおぞら学級	知的障害	昭29.4	2	14	1	15	3
第二小学校	あけぼの学級	情緒障害	昭55.4	4	28	5	33	5
第五小学校	こだま学級	知的障害	昭32.6	2	8	5	13	3
第七小学校	ことばの教室	言語障害	平18.4	3	30	19	49	4
第七小学校	あすなろ学級	情緒障害	平21.5	2	13	1	14	3
第九小学校	くわのみ学級	知的障害	昭59.4	3	13	7	20	4
第十小学校	すずかけ学級	知的障害	昭50.4	2	12	3	15	3
けやき台小学校	きこえとことばの教室	難聴・言語障害	昭51.4	4	40	16	56	5
若葉小学校	たんぼぼ学級	知的障害	昭63.4	1	4	3	7	2
松中小学校	はらっぱ学級	情緒障害	平18.4	4	31	6	37	5
新生小学校	ひまわり学級	知的障害	平16.4	1	6	2	8	2
立川第一中学校	I組	知的障害	昭53.4	2	6	3	9	3
立川第二中学校	6組	知的障害	昭39.4	2	10	3	13	3
立川第五中学校	10組	知的障害	昭53.4	3	15	2	17	4
立川第六中学校	相談学級	情緒障害	平元.4	2	4	8	12	3
立川第八中学校	相談学級	情緒障害	平9.4	2	6	8	14	3

②就学・転学相談

障害のある子どもの就学については、教育相談室に就学相談員を配置し、保護者からの相談に応じて、一人一人の子どもに合った教育の場を共に考え、適切な就学ができるよう相談を行っています。また、通常の学級に在籍する児童・生徒や転入してきた児童・生徒が特別支援学級等へ転学・入級を希望する場合は、随時、転学相談を受け付けています。

ア 平成21年度就学・転学相談件数

区分	小学校	中学校	計	区分	小学校	中学校	計
就学相談	38	35	73	転学相談	11	5	16

(6) 国際理解教育

国際化が進展する中であって、これからの学校教育においては、世界の人々の生活や文化に対する理解を深めるとともに、わが国の文化や伝統を正しく認識し、互いに尊重し合って行動できる人間を育成することが求められています。立川市教育委員会では、こうした点を踏まえて、国際理解教育の推進を重要な課題としてとらえ、「学校教育の指針」の中に盛り込むとともに、各種の関連事業を実施し、その推進を図っています。

①外国人留学生・研修生との交流

立川市では、姉妹都市であるアメリカ・サンバーナディノ市との交換留学生制度を実施し、サンバーナディノ市の高校生が毎年来日しています。また、立川四中国際交流支援ネットワークという民間団体が、立川マラソンが縁で交流が始まったニューカレドニアの中学校の研修生を、隔年で受け入れしています。このような機会をとおして、立川第四中学校の生徒と相互交流を図ったり、互いの国の生活、文化、習慣に慣れることで国際親善・国際理解を図っています。

②市内の外国人学校との交流

市内にある西東京朝鮮第一初中級学校や横田基地内の横田イーストスクールなどを市内の小学生が訪問したり、訪問を受けたりし、スポーツや音楽を通じて交流を図っています。また、西東京朝鮮第一初中級学校の中学生が中学校の連合音楽会に参加するなどし、練習の成果を競い合うとともに、交流を深めています。

③外国語指導助手（ALT）の配置

中学校では、国際性を育てるため、また「聞く・話す」能力向上のため、各中学校に外国人英語指導員を配置し、英語教育の充実と国際理解教育の推進を図っています。

小学校では、外国語活動への対応として、外国語指導助手（ALT）を配置し、国際理解教育と外国語活動の充実を図っています。

④通訳協力員の配置

小・中学校に編入する帰国子女や外国人の児童・生徒で、日本語が話せない子どもたちのために、主に授業の通訳をする通訳協力員を在籍校に配置し支援を行っています。

(7) 情報教育

情報化社会が急速に進展する中、小・中学校では、総合的な学習の時間や技術・家庭科（中学校）等で情報教育に取り組んでいます。立川市教育委員会では、これまで、コンピュータ機器の導入を順次進めてきました。平成11年度に、全小・中学校にインターネットを接続して以来、コンピュータをはじめとする教育機器を活用した授業の工夫・実践を重ね、情報教育の推進を図っています。

①コンピュータ機器の整備

小学校では、平成12年度、全小学校に教育用コンピュータ各10台を設置しました。中学校では、平成13年度各40台の教育用コンピュータを整備し、平成14年度には、小学校に各10台を追加して計各20台配置としました。平成17年度には、教職員用コンピュータ各9台の整備を行いました。平成19年度に教員用コンピュータを、小学校に239台、中学校に130台整備しました。さらに、平成21年度には、校務用コンピュータを小学校に122台、中学校に48台配備しました。

これらの教育用コンピュータは、総合的な学習の時間の中で調べ学習に利用するほか、技術・家庭科でパソコンの操作やソフトの活用方法を学ぶとともに、理科や数学、国語などの教科でも利用しています。学校図書館システムについては、平成19年度に松中小学校、平成20年度に第三小学校、平成21年度に西砂小学校、平成22年度に第二・第六・第九・けやき台・南砂・幸・大山・上砂川・新生小学校の9校に導入しました。このシステムにより、貸し出しや返却がスムーズに

行われるようになりました。

②インターネットの活用

市の地域情報化計画の一環として、市内のCATV「マイ・テレビ」の回線を利用した双方向通信実験というかたちで、平成9年度から市内の小・中学校3校（平成10年度は4校）でインターネットの利用を開始しました。平成11年度からは、全小・中学校に双方向通信用の各2台のコンピュータを設置し、その後、パソコン室の整備に伴い、パソコン室で学習をする際にインターネットが利用できるようになりました。調べ学習等の情報収集や電子メールによる情報の交換を行い、ホームページの開設など活用範囲を広めています。平成17年度には、全小・中学校にインターネット用コンピュータ各2台を職員室に配備しました。

③地上デジタル放送対応テレビの整備

平成21年度国の補助金等を活用し、全小学校に410台、全中学校に156台を普通教室等に整備しました。地上デジタル放送対応テレビは、パソコンやデジタルカメラと連携することにより、わかりやすい授業ができるなど、大きな学習効果があります。

(8) キャリア教育・進路指導

生徒一人一人の興味、関心、能力、適性を尊重したキャリア教育・進路指導を推進するため、中学校進路指導問題協議会を設け、各学校におけるキャリア教育・進路指導の実態把握を行うとともに、望ましいキャリア教育・進路指導の検討、指導資料等の作成を行っています。そして、各学校では、協議会の検討結果などを踏まえてキャリア教育・進路指導の計画を立て、主に1年生で地域の職場訪問、2年生で職場体験学習や高校等の上級学校への訪問などを行い、生き方や進路への興味、関心を高めさせるとともに、自己理解を進め、3年生での具体的な進路選択の能力を養います。また、各学校には進路学習室等が設けられ、進路に関連する資料を備えて、生徒への情報提供に努めているほか、休み時間や放課後を利用して、教師が生徒からの相談に応じています。

①平成22年度（H21年度卒業）中学校課程・学科別進学状況

学校	性別	男		女		計		
		人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	
高等学校	全日制	普通科	455	74.6	501	80.8	956	77.7
		総合学科	3	0.5	9	1.5	12	1
		農業科	3	0.5	12	1.9	15	1.2
		工業科	50	8.2	3	0.5	53	4.3
		商業科	7	1.1	14	2.3	21	1.7
		その他	12	2	18	2.9	30	2.4
		計	530	86.9	557	89.9	1087	88.4
	定時制	普通科	40	6.6	46	7.4	86	7
		農業科	0	0	1	0.2	1	0.1
		工業科	4	0.8	0	0	4	0.3
		商業科	4	0.8	6	0.9	10	0.8
		総合学科	1	0.2	0	0	1	0.1
		その他	0	0	0	0	0	0
		計	49	8	53	8.5	102	8.3
特別支援学校高等部		12	2	3	0.5	15	1.2	
高等専門学校		6	1	0	0	6	0.5	
高等学校通信制		13	2.1	7	1.1	20	1.6	
合計		610	100	620	100	1230	100	

②年度別進路状況の推移

年度	卒業者数	進学者		就職進学者		就職者		無職者		その他	
		人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
17年度	1,217	1,160	95.3	0	0.0	14	1.2	13	1.1	30	2.4
18年度	1,243	1,188	95.6	1	0.1	16	1.3	14	1.1	24	1.9
19年度	1,256	1,204	95.9	0	0.0	9	0.7	23	1.8	20	1.6
20年度	1,246	1,196	96.0	0	0.0	8	0.6	28	2.3	14	1.1
21年度	1,294	1,230	95.1	0	0.0	8	0.6	21	1.6	35	2.7

(9) 校外授業

平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しみ、集団生活の在り方や公衆道徳などについて、望ましい体験を積むとともに、児童・生徒相互や教師と日常生活では得られない交流を図ることを目的に、小学校では八ヶ岳自然教室と日光移動教室を、中学校では移動教室と関西方面への修学旅行を実施しています。

①八ヶ岳自然教室

小学5年生を対象に各学校ごとに春から秋にかけて実施するもので、立川市八ヶ岳山荘に宿泊し、2泊3日の行程でハイキングや自然観察、飯ごう炊さん、キャンプファイアーなどを行い、八ヶ岳の自然に親しむとともに、集団生活の中での生活習慣を身に付けます。

②日光移動教室

従来学校行事として行われてきた日光修学旅行を、学習指導の体験学習として位置付け、平成7年度から小学6年生を対象に日光移動教室を実施しています。毎年6月に実施するもので、日光の湯ノ湖畔に宿泊し、2泊3日の行程で名所・旧跡を見学したり、自然の中を散策したりし、様々な体験学習をするとともに、小学校生活最後の思い出として集団生活を楽しまます。

③中学校移動教室

主に1年生を対象に、各学校ごとに計画・実施されており、1泊や2泊で立川市八ヶ岳山荘等を利用し、8校は冬季にスキー教室を、1校は5月に体験学習をそれぞれ行っています。

④中学校修学旅行

中学3年生が中学校生活最後の思い出として、5～6月に2泊3日の行程で歴史ある都市を訪れます。行き先は学校ごとに計画し、主に京都・奈良の名所や旧跡を見学しています。最近では生徒の自主性・自律性をはぐくむ視点から班行動の時間を設けており、それぞれが事前に下調べをして施設を見学し、見聞を広めています。

(10) 立川教育フォーラム

市立の小・中学校の教育実践を広く市民に紹介し、立川市の教育への理解と関心を高めていただくために、第6回立川教育フォーラムを平成22年1月16日に開催しました。

当日は、小・中学校6校が発表を行うとともに、「変わる 立川の教育」というテーマで、文部科学省初等中等教育局教科調査官の方を講師にお招きし、講演を行いました。また、市内全小・中学校に加え、市内にある都立立川国際中等教育学校、都立立川ろう学校もポスターセッションで参加し、教育活動を紹介しました。

2. 就学援助

経済的理由により、児童・生徒に義務教育を受けさせることが困難な場合には、関係法令に基づいて、学用品費や給食費などを援助し、教育の機会均等を図っています。援助の対象は、立川市民で立川市立の小・中学校及び国・公立小中学校に通う児童・生徒の保護者のうち、生活保護法に定める「要保護者」と、世帯の収入によって教育委員会がこれに準ずると認めた「準要保護者」で、これらの世帯に対し、学用品・通学用品費、給食費、校外活動費、医療費など7種類の費目の援助を行っています。援助する費目や額は、要保護・準要保護の別、学校、学年によって多少異なります。なお、要保護者の世帯については、これら就学援助費の一部を教育扶助として福祉保健部生活福祉課から支給しています。

(1) 認定者数の推移

年度	区分	在籍者数	認定区分	
			要保護	準要保護
19年度	小学校	8,863	167	1,527
	中学校	3,776	97	745
	計	12,639	264	2,272
20年度	小学校	8,834	167	1,417
	中学校	3,782	102	741
	計	12,616	269	2,158
21年度	小学校	8,840	194	1,357
	中学校	3,786	121	747
	計	12,626	315	2,104

※在籍者数は5月1日現在、認定区分は最終数

(2) 支給費目と金額

費用	支給金額
給食費	実費相当分
学用品・通学用品費(年額)	小学1年 11,110円 小学2～6年 13,310円 中学1年 21,780円 中学2・3年 23,980円
校外活動費	実費相当分
新入学学用品費	小学1年 19,900円 中学1年 22,900円
修学旅行費	実費相当分
医療費	本人負担分
卒業アルバム代	小学校 4,500円 中学校 5,000円

※医療費の支給は対象となる疾病のみ

※支給金額は平成21年度の金額

3. 学校保健

生活様式や社会環境などの著しい変化は、運動能力の低下や、いじめをはじめとする心の健康問題の増加など、子どもたちの心と体に様々な影響を与えています。また、薬物乱用や性の逸脱行為、生活習慣病、感染症など、健康に関する現代的課題も深刻化しています。立川市教育委員会では、こうした状況を踏まえ、学校や学校保健会などとも連携を図って、定期健康診断をはじめとする各種の検診を実施しているほか、児童・生徒の心と体の健康づくりを目指し、様々な行事を通じて、その意識高揚に努めています。

(1) 主な検診と事業

①定期健康診断

全児童・生徒を対象に、毎年4月から6月にかけて実施し、診断結果に基づいて、疾病の予防および治療を指導しています。

②結核診断

平成15年度からBCG接種が小・中学校で廃止となったため、小学生児童および中学生全員に問診票を配布し、専門家で構成する結核対策委員会の判断に基づき、精密検査を必要とする児童・生徒に、ツベルクリン反応検査またはレントゲン直接撮影を行うよう指導しています。

③心臓検診

小学1年生・中学1年生全員および学校医が必要と認めた児童・生徒を対象に問診票と心電図による1次検診を実施し、その結果、精密検査が必要と認めた児童・生徒には、胸部X線直接撮影などによる2次検診を実施しています。さらに異常所見者に対しては、管理説明会を行っています。

④尿検査（腎臓病検査）

全児童・生徒を対象に尿検査を実施し、1次検査でたんぱく、糖、潜血を調べ、所見者を対象に2次検査を実施しています。さらに異常所見者に対しては、3次検査および管理説明会を行っています。

⑤ぎょう虫卵検査

小学1～3年生を対象にセロハンテープ方式による1次検査を実施し、その結果、陽性者について2次検査を行います。

⑥就学時健康診断

就学予定の児童については、毎年11月ごろに学校医により内科・眼科・耳鼻咽喉科・歯科の健康診断を実施しています。

⑦健康努力児童・生徒の表彰

年間を通して体力の向上に努めたり、病気を克服して積極的に学校行事に参加したり、学校の保健活動に取り組んだなど、他の模範になった児童・生徒を1年に1回表彰しています。平成21年度は、86人の児童および34人の生徒が表彰を受けました。

⑧歯の衛生週間児童・生徒ポスター展

毎年、歯の衛生に関する正しい知識等を啓発するため、小学5・6年生及び中学1年生の作品展をアイムギャラリーで実施しています。

平成21年度は、応募作品のうち、小学生の作品233点と中学生の作品77点を展示しました。

⑨AED（自動体外式除細動器）の設置

平成17年度末に市内の小・中学校全29校にAEDを設置し、緊急時の対応に備えています。

（2）児童・生徒の体位平均値

①小学校

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		市平均	都平均	全国平均	市平均	都平均	全国平均	市平均	都平均	全国平均
1年	男	117.0	117.5	116.7	21.5	21.7	21.5	64.6	65.2	64.9
	女	115.8	116.1	115.8	21.1	21.2	21.0	64.7	64.6	64.5
2年	男	122.7	122.9	122.6	24.1	24.2	24.1	67.5	67.8	67.7
	女	121.9	122.2	121.7	23.7	23.5	23.5	67.4	67.4	67.3
3年	男	127.8	129.1	128.3	27.1	27.4	27.2	70.0	70.6	70.3
	女	127.6	127.4	127.5	26.4	26.4	26.5	69.8	69.8	70.0
4年	男	133.7	133.9	133.6	30.5	30.5	30.6	72.7	72.7	72.7
	女	133.2	134.1	133.5	29.8	30.2	30.0	72.3	73.0	72.7
5年	男	138.8	139.5	138.9	34.0	34.6	34.2	74.8	75.2	75.0
	女	140.0	140.4	140.3	33.7	33.8	34.1	75.6	75.8	75.9
6年	男	145.3	145.4	145.1	38.4	39.0	38.4	77.8	77.6	77.6
	女	146.5	147.4	146.9	38.6	39.0	39.0	78.8	79.4	79.3

②中学校

区分		身長 (cm)			体重 (kg)			座高 (cm)		
		市平均	都平均	全国平均	市平均	都平均	全国平均	市平均	都平均	全国平均
1年	男	153.2	152.9	152.5	44.4	44.6	44.2	81.5	81.5	81.3
	女	152.0	152.1	151.9	43.3	43.5	43.8	82.0	82.3	82.1
2年	男	159.9	160.3	159.7	48.9	50.1	49.1	84.8	85.2	84.9
	女	155.0	154.8	154.9	46.7	46.3	47.3	83.7	83.5	83.7
3年	男	165.6	166.0	165.2	53.6	55.1	54.3	88.3	88.6	88.1
	女	156.3	157.1	156.7	50.7	50.0	50.2	84.8	84.8	84.7

(3) 平成21年度定期健康診断結果 (注)難聴は小学1・2・3・5年生、中学1・3年生で実施

区 分		小学校						中学校				
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計
受 診 者 数		1,503	1,385	1,467	1,411	1,470	1,491	8,727	1,226	1,191	1,228	3,645
栄 養	栄 養 不 良	/	/	/	/	/	/	/	3	2	1	6
	肥 満 傾 向	5	14	25	22	24	18	108	10	3	11	24
脊 柱 側 わ ん 症		3	3	/	4	3	1	14	11	4	8	23
その他の脊柱・胸部異常		3	2	2	2	3	2	14	2	/	2	4
視 力	1.0未満0.3以上	351	334	388	351	387	411	2,222	365	335	316	1,016
	0.3 未 満	25	57	125	153	163	244	767	214	219	264	697
眼 鏡 C T 着 用 者		23	31	99	144	212	286	795	205	303	422	930
伝 染 性 眼 疾 患		2	1	/	1	/	/	4	/	/	/	/
その他の眼疾患・異常		75	58	80	91	59	69	432	42	53	39	134
難 聴 (両 耳)		13	11	10	/	12	/	46	4	/	10	14
耳 疾 患		238	173	157	145	150	138	1,001	84	83	59	226
鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患		267	224	234	275	255	258	1,513	170	185	195	550
口 腔 咽 喉 頭 疾 患		55	38	24	31	32	30	210	20	9	2	31
伝 染 性 皮 膚 疾 患		4	/	3	2	2	/	11	/	/	/	/
アレルギ-皮膚疾患		80	65	77	67	72	60	421	23	25	26	74
心臓疾患・異常		40	13	8	10	9	12	92	26	8	8	42
気 管 支 ぜん 息		138	108	110	99	96	105	656	49	58	52	159
腎 臓 疾 患		5	2	3	7	2	3	22	2	2	/	4
その他の疾患・異常		24	26	24	16	13	9	112	9	17	18	44
歯 口 腔 の 検 査	受 診 者 数	1,498	1,386	1,466	1,408	1,470	1,478	8,706	1,216	1,181	1,229	3,626
	処 置 完 了 者	419	487	583	604	608	542	3,243	340	362	438	1,140
	未 処 置 者	435	432	487	444	445	392	2,635	256	225	284	765
	歯 周 疾 患	/	5	11	6	12	16	50	3	6	2	11
	歯 列 ・ 咬 合 ・ 顎 関 節 異 常	13	18	30	10	12	12	95	17	20	10	47
その他の疾患・異常		41	27	51	50	83	62	314	15	27	6	48

(4) 災害共済給付

子どもたちが安全で楽しく学校生活がおくれるように、独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済に市が全額負担して加入し、学校管理下で児童・生徒が災害にあった場合に医療費や見舞金を支給しています。

①給付件数・金額推移

区 分	小学校		中学校	
	給付件数(件)	給付金額(円)	給付件数(件)	給付金額(円)
19年度	806	4,380,811	461	2,925,658
20年度	772	4,062,753	468	3,460,791
21年度	758	4,188,174	460	2,803,436

②傷病別事故件数推移

区 分		創傷	骨折	ねんざ	打撲	脱きゅう	その他	計
小学校	19年度	76	92	88	182	21	29	488
	20年度	62	108	79	175	18	32	474
	21年度	67	84	82	167	10	38	448
中学校	19年度	21	63	57	87	7	15	250
	20年度	22	65	55	88	2	14	246
	21年度	9	69	41	73	8	20	220

4. 学校給食

学校給食は、学校給食法に基づき、児童・生徒の心身の健全な発達のために、栄養バランスのとれた食事を提供することにより、健康増進を図るほか、食事についての正しい理解と望ましい食習慣を養うことなどを目的に実施しています。

また、学習指導要領においては、特別活動における学級活動の中に位置付けられ、望ましい食習慣の形成が目標にされており、立川市の各学校においても、「生きた教材」として、それぞれの学校にふさわしい指導体制を確立しています。



調理の様子

(1) 小学校給食

小学校においては、単独校方式、共同調理場方式ともに、国の「学校給食摂取基準」や、立川市衛生管理基準などに基づき、栄養バランスと安全衛生に十分配慮して、下記のとおり完全給食を実施しています。

※平成22年度予定

方式	調理	対象学校数	給食実施回数	稼動回数(予定)	給食数
単独調理方式校	自校	8校	186回	186回	3,685食
共同調理場	第一学校給食共同調理場	7校	186回	191回	2,970食
	第二学校給食共同調理場	5校	186回	192回	2,988食

①実施方法

(ア) 単独校方式

第一小学校から第八小学校までの8校で実施しており、各小学校所属の栄養士が、各種の基準に基づいて、それぞれ工夫した献立を作成し、市調理員が調理をしています。

(イ) 共同調理場方式

調理場所所属の栄養士が月1回の献立作成会議によって決定したA・B2種類の献立をたてて、各調理場所所属の市調理員が調理し、各対象学校で交互に実施しています。

名称	ブロック	対象学校
第一学校給食共同調理場	A	けやき台小、大山小、柏小
	B	十小、南砂小、若葉小、幸小
第二学校給食共同調理場	A	九小、上砂川小
	B	西砂小、松中小、新生小

②食材料

「立川市学校給食用材料調達事務要綱」に基づき、原則として国内産の安全で衛生的かつ良質な食材料を使用しています。野菜等は立川産を優先して使用しています。

(ア) 単独調理校

肉、野菜等の生鮮食品は、各学校の契約した登録業者の中から選定して発注しており、その他の乾物、調味料については学期ごとに各校の栄養士が共同調理場栄養士と協同して、見積もり合わせにより、納入業者を選定し、発注しています。

(イ) 共同調理場

月に1回、登録業者の見積もり合わせにより納入業者を選定しています。生鮮食品等については見本を提出させ、品質を確認した上で納入業者を選定しており、より安全な給食実施に努めています。

③給食指導

新学習指導要領に基づき

1. 基本的な生活習慣の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. 健康の保持・増進

を指導の重点として、「立川市学校給食指導の手引き」に基づき、各学校の給食主任と担当栄養士を中心に、それぞれの学校にふさわしい年間指導計画を作成して、給食指導を実施しています。

また、給食主任会を（合同3回、共同調理場校5回）行い、給食指導の充実を図っています。

④給食費（月額）

方 式	学 年	金 額
小学校・単独調理方式 (第一小学校～第八小学校)	1・2年生	3,900円
	3・4年生	4,150円
	5・6年生	4,400円
小学校・共同調理場方式 (上記以外12校)	1・2年生	3,800円
	3・4年生	4,050円
	5・6年生	4,300円

(2) 中学校給食

中学校においては、家庭の弁当か給食を選択できる弁当併用外注給食方式による給食を、平成9年に2校で試行実施したのち、平成12年4月に本格実施し、現在、全9校で実施しています。

給食実施に際しては、小学校と同様に、栄養バランスと安全衛生に十分配慮しています。

①実施方法

(ア) 弁当併用外注給食方式

家庭からの弁当と、民間調理業者が調理・盛り付けしたランチボックスによる給食のどちらかを選択できます。なお、献立作成や食材料の選定・調達等は市の栄養士が行っています。

(イ) ミルク給食

学校長が、弁当併用外注給食の実施日に合わせて原則全員を対象に実施しています。

②献立

市の栄養士が、国の「学校給食摂取基準」に基づき献立を作成します。

③食材料

小学校の共同調理場校と同様の方法により、安全で衛生的な食材料を市の栄養士が調達し、調理業者に納入しています。

④調理及び配送

民間業者2社に委託。業者は市の調達した食材を使用して調理し、ランチボックスに盛り付け、クラス別に配送ケースに入れ、各学校の配膳室に配送しています。

⑤給食費（一食）

※ミルク代45.00円は別徴収。

	金額
中学校	287円

⑥利用方法

利用する生徒は、献立表や予約機で献立を確認した後、プリペイドカードを使用して希望する日の給食を予約します。

⑦給食実施回数（平成21年度実績）

※（ ）内はミルク給食実施回数

学校名	回数	学校名	回数
立川第一中学校	161 (161)	立川第六中学校	184 (172)
立川第二中学校	188 (188)	立川第七中学校	182 (182)
立川第三中学校	177 (177)	立川第八中学校	174 (174)
立川第四中学校	178 (178)	立川第九中学校	173 (173)
立川第五中学校	183 (183)	計	1,600 (1,588)
		平均実施回数	178 (176)

（3）衛生管理

「立川市学校給食衛生管理基準」（平成19年9月改訂）に基づき、次のとおり安全・衛生の確保に努めています。

①施設・設備

施設・設備・配膳室とともに作業動線を考慮した配置をし、常に補修、整理整頓、清掃、消毒を行い、衛生器具を適切に備えるなど衛生管理の徹底に努めています。

②従事者

月2回の腸内細菌検査や定期健康診断等により健康状態に常に注意しているほか、服装や手指についても、常に清潔にするように心がけています。

また、保健所の協力により年1回衛生講習会を開催し、衛生管理に関する専門性の向上や意識高揚を図っています。

③食材料

食材料の納入にあたっては、検収責任者立会いのもと、品質、品温、鮮度、賞味期限、規格、数量、異物混入等について確認して記録しています。

納入された食材料は、衛生管理のため一部を2週間冷凍保管しています。

また、納入業者にも従業員の腸内細菌検査の結果や、微生物及び理化学検査の結果を提出させるなど衛生管理の徹底を促しています。

④調理・献立

野菜・果物等は下処理室で3回以上洗浄し、異物混入等を確認しています。

調理については、中心温度が75℃、1分間以上の加熱を原則として、献立ごとの作業手順にしたがって、調理器具等の消毒や取り扱い・使い分けに留意しながら必ず当日に行い、適切な温度管理のもと、調理後2時間以内に喫食できるようにしています。調理後の食品については、共同調理場及び各学校で検食を行うとともに、衛生管理のため一部を2週間冷凍保管しています。

献立については施設・設備に余裕を持った作成を行うとともに、衛生管理上、なま物やあえものについては提供を中止しています。

残菜・廃品処理についても、分別を徹底し、汚臭・汚液が漏れないように適宜集積場に搬出し、搬出後は清掃を行っています。なお、給食の残菜等については、市が実施している「せん定枝資源化事業」に協力して堆肥化を図ることで、環境にも配慮しています。

⑤その他

配膳・配送・回収についても、適切な温度管理や清掃、日常点検、洗浄、殺菌など衛生管理の徹底を図っています。

児童・生徒に対しては、手洗いの励行や、小学校給食の配膳時は給食当番に白衣・マスク・帽子着用を指導しています。

そのほか、衛生管理体制の整備や、薬剤師等による各種の衛生検査を実施しています。

(4) 主要事業

①食教育事業

近年、ライフスタイルの多様化などにより、子どもたちの食生活は大きく変化し、偏食や肥満による生活習慣病の増加などが指摘されています。

成長期にある児童・生徒に望ましい食習慣と自己管理能力を身につけさせるため、食の専門家である栄養士が給食時間や食に関連する各教科等の時間に学級担任等と連携して、生きた教材である学校給食を活用した授業をチームティーチング方式で実施しています。平成21年度は、全小

学校20校で実施しました。

今後はさらに支援指導の回数を増やし充実していく予定です。

なお、中学校については1校で実施し、その他ポスター貼付等啓発活動やマニュアル作成を行いました。

②新学校給食共同調理場整備運営事業

現在の第一及び第二学校給食共同調理場の老朽化対策と運営の効率化を図るため、統合した新共同調理場の検討を進めています。

平成19年度に事業化について調査・検討を行い、事業手法は、従来型の手法より、民間のノウハウを活用するPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）手法が最適であるとしました。また、計画地である市営一番町北住宅3・4号棟跡地は、敷地形状や面積から、4階建ての建物となり、一般的な調理場である2階建てに比べて、ライフサイクルコストが増加するという課題も明らかになりました。

平成20年度は、この敷地の課題についての検討を行い、立川基地跡地の公的利用を想定している土地を新たな計画地とすることとし、平成21年度に建設から運営に至る事業全体の検討を行い、実施方針を公表しました。

今年度（平成22年度）は、事業者の募集及び選定を行い、事業契約の締結をする予定です。

<参考資料>

1 平均供給栄養量（児童・生徒1人1回当り）

※平成22年5月分

区分		栄養素	エネルギー	たんぱく質	脂質	食塩相当量	カルシウム	鉄
			(kcal)	(g)	(%)	(g)	(mg)	(mg)
小学校	国標準(中学年)		660	範囲 13~28	エネルギー の25~30%	2.5未満	350	3.0
	市平均(中学年)		658	25.6	30.9	2.9	357	2.5
中学校	国標準		850	範囲 19~35	エネルギー の25~30%	3未満	420	4.0
	市平均		851	33.1	26.1	3.4	413	3.6

区分		栄養素	ビタミン			食物繊維	マグネシウム	亜鉛	
			A(μgRE)	B1(mg)	B2(mg)	C(mg)	(g)	(mg)	(mg)
小学校	国標準(中学年)		範囲 140~420	0.40	0.50	23	6.0	80	2.0
	市平均(中学年)		296	0.38	0.56	34	4.9	95	3.0
中学校	国標準		範囲 210~630	0.60	0.60	33	7.5	140	3.0
	市平均		312	0.48	0.67	50	6.9	122	4.0

2 食品分類別平均供給量（児童・生徒1人1回当り）

（平成22年5月分）（単位 g）

区 分		小 学 校		中 学 校	
		国基準(中学年)	市平均(中学年)	国基準	市平均
米		48	44.4	66	72.3
パ ン	小 麦	23	12.80	30	7.31
	イ ー ス ト	0.57	0.35	0.75	0.21
	食 塩	0.46	0.20	0.6	0.14
	油脂類・ショートニング	0.8	0.79	1.1	0.63
	砂 糖 類	0.8	1.07	1.1	0.84
	脱 脂 粉 乳	0.8	0.39	1.1	0.28
牛 乳		206	209.4	206	206.0
小麦粉及びその製品(小麦粉重量)		5	12.7	9	16.0
芋 及 び 澱 粉		38	32.2	44	44.7
砂 糖 類		3	2.1	4	3.8
豆 類（戻し）		6	3.0	6	6.2
豆 製 品		20	16.3	22	22.5
種 実 類		3.5	0.9	3.5	2.7
緑 黄 色 野 菜		23	30.3	35	41.8
そ の 他 の 野 菜		70	70.1	82	89.7
果 物 類		32	29.0	40	33.1
き の こ 類（戻し）		4	3.4	4	7.2
藻 類（戻し）		2	2.2	4	4.2
魚 介 類		16	15.0	21	22.4
小 魚 類		3	2.2	4	4.8
肉 類		15	21.8	19	22.5
卵 類		6	8.2	14	14.7
乳 類		4	4.1	6	8.2
油 脂 類		3	4.0	4	4.4

※中学校の栄養量等は、弁当併用外注給食方式による給食（ミルクを含む）の数値

5. 学校施設

(1) 教育環境の整備

校舎の建築については、昭和20年代半ばまで木造校舎が主流でしたが、それ以後、不燃化と児童・生徒の急増に対応するため、鉄筋コンクリート校舎建築の動きが全国各地で見られるようになりました。立川市においても、昭和33年に第一小学校が鉄筋コンクリート化され、続いて昭和35年には、第一・第二・第三中学校が相次いで鉄筋コンクリート校舎に改築されるなど、鉄筋コンクリート化時代へと移行していきました。また、昭和30年代後半から昭和40年代後半にかけては、児童・生徒が急増し、立川市においても、各地域に新しい学校が相次いで建築されました。現在ある市内の小・中学校のほとんどは、この時期に改築あるいは新築されたものであり、現在ではかなりの老朽化が進んでいる状況であります。このため、立川市教育委員会では、将来的に校舎の改築を検討しているほか、校舎や体育館、プールなどの大規模改造、便所等の改修などを年次計画を立てて進めるほか、児童・生徒数の減少に伴って発生してきた余裕教室についても有効活用を図るため、順次整備しているところです。

南富士見小学校と多摩川小学校を廃止し、平成16年4月1日に旧多摩川小の施設を仮使用して新生小学校を開校し、旧南富士見小学校の施設を改修したのち新生小学校として平成17年4月1日から開校しました。

①校舎改築

文部科学省の不適合改築の補助制度の中に「建築後おおむね10年以上経過した非木造建物で、教育機能上改築することがやむを得ないもの」という基準がある。立川市では、昭和30年代後半から昭和40年代後半にかけて改築あるいは新築された校舎がほとんどであるため、今後、改築工事の計画を行う必要性があります。

②校舎大規模改造

各学校の校舎は老朽化が進み、防音機能の低下などにより、学校運営に支障を来している状況です。このため、防音機能の復旧と校舎の各所改修を主として校舎大規模改造を、市の計画に位置付け、年次的に進めております。

③体育館大規模改造

過去、25年経過で改築ということで計画化され、昭和53年度から順次改築を進めてきましたが、平成8年度から平成12年度までは改築後20年以上を経過した体育館を、躯体以外は全面的に改修する大規模改造へと事業変更し、機能の向上を図りました。現在では、まず校舎の耐震補強工事を行い、その状況から全校完了後に再開する予定です。

④校舎・体育館耐震補強

阪神・淡路大震災を教訓として、災害時における児童・生徒の安全確保を図るとともに、地域住民の応急避難場所としての機能も果たすため、平成7年度から校舎と体育館の耐震診断を順次実施し、昭和56年の新耐震設計法施行以前に建築された校舎について、必要に応じて補強工事を行ってきました。

平成15年度に小中学校施設の耐震化推進計画策定支援事業として文部科学省の補助金により耐震補強工事の優先順位をつけた耐震推進改修計画の策定を行いました。それに基づき順次、耐震

補強工事を実施しております。

⑤プール大規模改造

設置後30年前後を経過したプールについて、プール底面の表面塗装およびプールサイドの改修、循環ろ過装置の改修を行っています。また、平成4年に文部省の環境衛生基準が改正されたことから、最近では腰洗い槽を撤去し、温水シャワーを設置する工事を先行して実施しています。

⑥便所改修

排水系統の老朽化や衛生管理上の問題から、トイレ内部の全面的な改修を進めています。改修については、使用上支障がないように1校につき2～3年かけて行っており、現在19校が改修済みです。校舎の大規模改造を行う学校については、その工事の中で行っており、改修が済んでいない学校についても、順次行う予定です。平成22年度は、小学新一年生が使用するトイレ、各小学校和式1個を除き、洋式便器に改修します。

⑦余裕教室の活用

児童・生徒数の急激な減少が進んだことから、立川市においても多数の余裕教室が発生しています。その活用については、平成5年度に余裕教室対策検討委員会がまとめた報告を踏まえて、余裕教室を特別教室や会議室、多目的室、教材室などに転用し有効活用を図るとともに、生涯学習時代を迎え、学校が社会教育施設としても役割を果たしていく必要があることから、積極的に地域開放を図っていくこととし、現在、第二・幸・新生小学校の3校の余裕教室の一部を会議室や和室、多目的室として整備し、地域開放しています。なお、今後については、国の「21世紀教育新生プラン」などにより少人数指導のための教室需要が増加することが予測されていますので、そのための有効活用も図っていく必要があります。

⑧水飲栓直結化

給水管の老朽化に伴い赤水化や残留塩素濃度の低下による対策として、公立小学校を対象に、学校フレッシュ水道を実施して、給水管の改修工事を平成19年度に1校、平成20年度に5校、平成21年度に7校の計13校を実施しています。平成22年度、6校の実施により、第一小学校を除き小学校19校が完了します。

⑨小学校校庭の芝生化

ヒートアイランド対策及び緑化対策に寄与するとともに、環境学習や地域コミュニティの形成など、快適で安全・安心な教育環境を整備するため、平成20年度に新生小学校の校庭を芝生化しました。芝生出前講座として平成21年度に第四小学校、平成22年度に第七小学校の校庭の一部を芝生化しました。また、平成22年度は、校庭芝生に関する諸効果研究事業として西砂・若葉小学校の校庭の一部を芝生化し、研究事業を行っています。

⑩第一小学校建替え事業

立川市では市内小中学校の耐震化を順次進めて来ましたが、最終となる第一小学校は建替えを行う計画になっています。そこで平成21年度に作成した建替え事業マスタープランを基に学校を中心とした複合化施設の設計作業を進め、平成24年度の着工、平成26年度中の新規開校を目標として、地域の核となる施設の建設を目指します。

(2) 学校施設の現況

①小学校

学校名	敷地面積	校舎面積	体育館面積	教室数		プール規模	
				普通	特別	大プール	小プール
第一小学校	12,602㎡	4800㎡	696㎡	14	13	25m×10m	
第二小学校	13,231	6,072	852	13	16	25×11.5	28.66㎡
第三小学校	11,808	5,419	871	18	10	25m×10m	12m×4.5m
第四小学校	15,141	5,586	883	15	13	25m×12m	10m×4.5m
第五小学校	15,624	5,786	868	19	13		7m×4m
第六小学校	11,137	5,225	868	12	12	25m×10m	10m×4.5m
第七小学校	15,227	3,899	921	7	11	25m×11.5m	6m×4m
第八小学校	19,724	7,202	1,041	18	17	25m×10m	163.23㎡
第九小学校	12,370	5,602	725	20	13		10m×5m
第十小学校	15,716	4,531	767	14	10		33.28㎡
けやき台小学校	15,977	7,233	713	15	16		6m×4m
西砂小学校	14,978	5,373	710	18	8		10m×4.5m
南砂小学校	9,626	4,657	749	12	10		
若葉小学校	16,441	5,905	737	7	20		
幸小学校	16,165	5,900	768	12	17		
松中小学校	16,144	6,108	735	14	16		
大山小学校	16,375	5,410	756	11	14		
柏小学校	16,728	6,301	882	18	14	7m×4m	
上砂川小学校	12,419	5,434	852	18	13	25m×12m	10m×4.5m
新生小学校	15,516	6,341	710	18	12	25m×10m	6m×4m
計	292,949㎡	112,784㎡	16,104㎡	293	268		

②中学校

学校名	敷地面積	校舎面積	体育館面積	教室数		プール規模	
				普通	特別	大プール	小プール
立川第一中学校	16,732㎡	6,697㎡	1,428㎡	13	23	25m×13m	
立川第二中学校	25,234	7,395	1,765	16	21		
立川第三中学校	18,167	7,266	1,713	12	22		
立川第四中学校	17,213	7,084	1,541	12	18		
立川第五中学校	19,007	7,552	1,597	22	19		
立川第六中学校	21,260	7,476	975	12	21		
立川第七中学校	21,746	7,342	1,393	14	21		
立川第八中学校	18,097	6,751	1,392	6	19		
立川第九中学校	18,391	7,210	1,397	9	20		
計	175,847㎡	64,773㎡	13,201㎡	116	184		

6. 小・中学校

(1) 小・中学校一覧

①小学校

平成22年4月1日

学校名	所在地	電話番号	校長名	副校長名	創立年月日	開校記念日
第一小学校	柴崎町2-20-3	523-4428	操木 豊	富田 清	明3年3月3日	3月3日
第二小学校	曙町3-23-1	523-4438	浅川 縁	堀田 益男	昭4年9月2日	9月6日
第三小学校	錦町3-4-1	523-4448	小池慎一郎	大谷 憲司	昭12年1月8日	3月11日
第四小学校	富士見町4-4-1	523-5228	月岡 正明	池田 泰章	昭15年11月25日	11月27日
第五小学校	高松町1-12-25	523-5238	向井 雄次	森村 聡彦	昭15年11月27日	11月27日
第六小学校	羽衣町2-29-22	523-5248	高野 明彦	森 清隆	昭25年2月1日	4月15日
第七小学校	錦町5-6-43	523-5348	記野 邦彦	杉本 信代	昭33年4月1日	4月25日
第八小学校	幸町2-1-1	536-0031	田中 洋子	宇山 幸宏	明33年7月27日	2月15日
第九小学校	上砂町2-18-1	536-2231	兒嶋 重明	石田 孝士	明5年5月 日	11月27日
第十小学校	柏町1-31-1	536-2711	三宅 弘	平山 公彌	昭40年4月1日	10月2日
けやき台小学校	若葉町1-13-1	536-1875	畠山 正樹	三木 秀子	昭41年9月1日	10月3日
西砂小学校	西砂町2-34-2	531-2082	武田 好史	豊田 恒人	昭42年4月1日	6月17日
南砂小学校	栄町2-2-1	525-1474	内野 康之	高田 幸男	昭45年4月1日	6月1日
若葉小学校	若葉町4-24-1	536-3971	井上 和芳	山下 裕夫	昭46年4月1日	10月27日
幸小学校	幸町5-68-1	536-3961	佐藤喜重郎	小崎 仁	昭46年4月1日	10月27日
松中小学校	一番町5-8-5	531-3821	武田 伸一	宮城 恵子	昭46年4月1日	10月27日
大山小学校	上砂町1-5-33	535-2850	駒井 隆治	田中 光晴	昭47年4月1日	10月20日
柏小学校	柏町4-8-4	537-1962	高藤 一伸	町田 浩一	昭52年2月1日	2月1日
上砂川小学校	上砂町5-12-2	537-1801	飯田 芳男	野口 知義	昭58年4月1日	5月1日
新生小学校	富士見町6-69-1	524-3148	吉岡 一彦	後藤 宏文	平16年4月1日	2月25日

②中学校

学校名	所在地	電話番号	校長名	副校長名	創立年月日	開校記念日
立川第一中学校	柴崎町1-3-4	523-4328	嶋崎 政男	大堀 浩	昭22年4月1日	5月1日
立川第二中学校	曙町3-29-46	523-4338	常盤 隆	大神田佳明	昭22年4月1日	5月4日
立川第三中学校	羽衣町3-25-6	523-4348	小沼 孝行	坂詰 悦子	昭26年4月10日	4月10日
立川第四中学校	幸町5-49-1	536-2411	伊藤 洋英	秋野 宏之	昭22年4月1日	5月26日
立川第五中学校	上砂町3-27-1	536-2511	國島 健二	長谷川 聡	昭39年4月1日	6月9日
立川第六中学校	泉町786-16	537-3195	浅川 公一	須藤 和博	昭49年2月1日	6月17日
立川第七中学校	西砂町6-28-3	531-0511	栗野 正石	井土 満	昭53年4月1日	5月4日
立川第八中学校	富士見町7-24-1	526-2007	鈴木 達夫	小林 正隆	昭53年4月1日	5月2日
立川第九中学校	若葉町3-19-5	535-1415	山口 俊浩	間中 和男	昭54年4月1日	11月2日

(2) 児童・生徒数および学級数

①小学校

(平成22年5月1日現在)

学校名	児童数							学級数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
第一小学校	73	74 (3)	71 (6)	64 (2)	74 (2)	76 (2)	432 (15)	2	2	2	2	2	2	12 (2)
第二小学校	87	51	45	65	53	49	350	3	2	2	2	2	2	13 (4)
第三小学校	86	104	96	82	89	98	555	3	3	3	3	3	3	18
第四小学校	76	102	66	102	83	75	504	2	3	2	3	3	2	15
第五小学校	96 (3)	88 (2)	91 (2)	84 (5)	79	96 (1)	534 (13)	3	3	3	3	2	3	17 (2)
第六小学校	50	61	47	55	68	53	334	2	2	2	2	2	2	12
第七小学校	18	35	29	40	43	30	195	1	1	1	1	2	1	7 (5)
第八小学校	65	81	69	90	72	89	466	2	2	2	3	2	3	14
第九小学校	82 (4)	94 (3)	86 (6)	79 (1)	78 (1)	107 (5)	526 (20)	3	3	3	2	2	3	16 (3)
第十小学校	59 (3)	69 (3)	54 (1)	62 (3)	68 (4)	65 (1)	377 (15)	2	2	2	2	2	2	12 (2)
けやき台小学校	97	79	94	83	65	74	492	3	2	3	3	2	2	15 (4)
西砂小学校	117	96	80	88	96	92	569	4	3	2	3	3	3	18
南砂小学校	67	46	53	59	53	44	322	2	2	2	2	2	2	12
若葉小学校	30	28 (2)	20 (2)	37 (1)	33 (1)	28 (1)	176 (7)	1	1	1	1	1	1	6 (1)
幸小学校	65	72	68	65	76	69	415	2	2	2	2	2	2	12
松中小学校	66	64	81	71	61	81	424	2	2	3	2	2	3	14 (4)
大山小学校	38	51	46	55	55	65	310	1	2	2	2	2	2	11
柏小学校	101	98	84	100	95	104	582	3	3	3	3	3	3	18
上砂川小学校	112	110	106	102	108	114	652	3	3	3	3	3	3	18
新生小学校	86	103 (1)	103 (2)	88 (2)	92 (2)	69 (1)	541 (8)	3	3	3	3	3	2	17 (1)
計	1,471 (10)	1,506 (14)	1,389 (19)	1,471 (14)	1,441 (10)	1,478 (11)	8,756 (78)	47	46	46	47	45	46	277 (28)

() 内は特別支援学級、通級指導学級の児童数・学級数で外数

②中学校

(平成22年5月1日現在)

学校名	生徒数				学級数			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
立川第一中学校	134 (3)	112 (2)	131 (4)	377 (9)	4	3	4	11 (2)
立川第二中学校	178 (5)	165 (6)	156 (2)	499 (13)	5	5	4	14 (2)
立川第三中学校	148	144	141	433	4	4	4	12
立川第四中学校	160	138	124	422	4	4	4	12
立川第五中学校	223 (9)	249 (5)	259 (3)	731 (17)	6	7	7	20 (3)
立川第六中学校	94	115	127	336	3	3	4	10 (2)
立川第七中学校	140	156	174	470	4	4	5	13
立川第八中学校	76	66	71	213	2	2	2	6 (2)
立川第九中学校	93	81	62	236	3	3	2	8
計	1,246 (17)	1,226 (13)	1,245 (9)	3,717 (39)	35	35	36	106 (11)

() 内は特別支援学級、通級指導学級の生徒・学級数で外数

(3) 児童・生徒数の推移

①小学校

(各年5月1日現在)

年次	校数	学級数	児童数		
			総数	男	女
昭和45	14	263	9,504	—	—
50	18	356	13,223	6,882	6,341
55	20	410	15,304	7,962	7,342
60	21	363	12,711	6,513	6,198
平成 2	21	312	10,061	5,187	4,874
10	21	281	8,363	4,285	4,078
11	21	279	8,324	4,279	4,045
12	21	278	8,329	4,299	4,030
13	21	275	8,377	4,288	4,089
14	21	279	8,398	4,276	4,122
15	21	280	8,493	4,322	4,171
16	20	289	8,678	4,373	4,305
17	20	295	8,784	4,462	4,322
18	20	294	8,769	4,425	4,344
19	20	300	8,863	4,497	4,366
20	20	299	8,834	4,506	4,328
21	20	299	8,840	4,528	4,312
22	20	305	8,834	4,572	4,262

②中学校

(各年5月1日現在)

年次	校数	学級数	生徒数		
			総数	男	女
昭和45	5	94	3,761	—	—
50	6	113	4,651	2,408	2,243
55	9	155	6,118	3,195	2,923
60	9	175	7,077	3,747	3,330
平成 2	9	155	5,731	2,976	2,755
10	9	122	4,114	2,108	2,006
11	9	119	3,968	2,024	1,944
12	9	116	3,880	1,973	1,907
13	9	117	3,827	1,938	1,889
14	9	116	3,774	1,909	1,865
15	9	113	3,695	1,894	1,801
16	9	114	3,690	1,912	1,778
17	9	111	3,706	1,895	1,811
18	9	115	3,743	1,917	1,826
19	9	115	3,776	1,891	1,885
20	9	118	3,782	1,917	1,865
21	9	114	3,786	1,893	1,893
22	9	117	3,756	1,888	1,868

学級数、児童・生徒数は特別支援学級、通級指導学級を含む

(4) 学校職員数

(平成22年5月1日現在)

区分 校名	都費職員									市費職員									合計 *1						
	校長	副校長	通常学級教諭	特別支援学級教諭	養護教諭	充当指導主事	事務職員	嘱託職員等	計 *1	事務	事務嘱託	栄養士	調理	調理嘱託	用務	用務嘱託	給食配膳	給食配膳嘱託			特別支援学級指導	特別支援学級指導嘱託	計 *1	合計 *1	
第一小学校	1	1	15	3	1		1	1	22	1		1	1	4	1	1					6	2	28	3	
第二小学校	1	1	16	5	1		1	1	25	1		1	1	4		1					6	1	31	2	
第三小学校	1	1	22		1	2	1	1	28	1		1	1	4	1	1	1				6	3	34	4	
第四小学校	1	1	18		1		1	2	22	2		1	1	4	1	1	1				6	3	28	5	
第五小学校	1	1	21	3	1		1	1	28	1		1	1	4	1	1	1		1	1	7	4	35	5	
第六小学校	1	1	15		1		1	1	19	1		1	1	3	1	1					5	2	24	3	
第七小学校	1	1	10	7	1		1		21	0		1	1	3		1	1				5	2	26	2	
第八小学校	1	1	17		1		1	1	21	1		1	1	4	1	1	1				6	3	27	4	
第九小学校	1	1	18	4	1		1	2	26	2		1			1		1	1	1	2	3	4	29	6	
第十小学校	1	1	15	3	1		1	1	22	1		1			1		1	1			2	2	24	3	
けやき台小学校	1	1	18	6	1		1	1	28	1		1			1		1	1			2	2	30	3	
西砂小学校	1	1	22		1		1	1	26	1		1			1		1	1			2	2	28	3	
南砂小学校	1	1	15		1		1	1	19	1		1			1	1	1				2	2	21	3	
若葉小学校	1	1	9	2	1		1		15	0		1			1		1		2		4	1	19	1	
幸小学校	1	1	15		1		1		19	0		1			1	1	1	1			2	3	21	3	
松中小学校	1	1	17	5	1		1	1	26	1		1			1	1	1	1			2	3	28	4	
大山小学校	1	1	14		1		1	1	18	1		1			1	1	2				3	2	21	3	
柏小学校	1	1	21		1		1	1	25	1		1			1		1	1			2	2	27	3	
上砂川小学校	1	1	22		1		1	1	26	1		1			1		2				3	1	29	2	
新生小学校	1	1	21	2	1		1	1	27	1		1			1	1	2		1		4	2	31	3	
小学校計	20	20	341	40	20	2	20	19	463	19		20	8	30	6	20	10	15	7	5	3	78	46	541	65
立川第一中学校	1	1	19	3	1		1		26			2			1						1	2	27	2	
立川第二中学校	1	1	21	3	1		1	1	28	1		2			1						1	2	29	3	
立川第三中学校	1	1	19		1		1	1	23			2			1	1					1	3	24	3	
立川第四中学校	1	1	20		1		1	1	24	1		2			1						1	2	25	3	
立川第五中学校	1	1	34	4	1		1	1	42	1		2			1						1	2	43	3	
立川第六中学校	1	1	16	3	1	1	1	1	24	1		2			1						1	2	25	3	
立川第七中学校	1	1	22		1		1		26			2			1						1	2	27	2	
立川第八中学校	1	1	11	3	1		1	1	18	1		2			1						1	2	19	3	
立川第九中学校	1	1	16		1		1		20			2			1						1	2	21	2	
中学校計	9	9	178	16	9	1	9	6	231	5		18			9	1					9	19	240	24	
合計	29	29	519	56	29	3	29	25	694	24		38	8	30	6	29	11	15	7	5	3	87	65	781	89

*1 右欄の数字は嘱託員等の数で外教

(5) 通学区域

(平成22年5月1日現在)

学校名	通 学 区 域
第一小学校	柴崎町1～6丁目(全町)
第二小学校	曙町1丁目～11～37、2・3丁目、高松町3丁目15(11～19)、16(9～16)、17(10～16)、18(9～15)、19(12～14)、20(9～14)、21(12～19)、22～32
第三小学校	錦町1・3・4・6丁目
第四小学校	富士見町1・2丁目、3丁目1～9、4・5丁目、曙町1丁目1～10
第五小学校	高松町1・2丁目、3丁目1～14、15(1～10、20～25)、16(1～8、17～22)、17(1～9、17～19)、18(1～8、16～21)、19(1～9、15～19)、20(1～8、15～20)、21(1～11、20～25)、栄町3丁目1～29、4丁目1～43、緑町
第六小学校	羽衣町1～3丁目(全町)
第七小学校	錦町2・5丁目
第八小学校	栄町2丁目44～46、4丁目44～47、5・6丁目、幸町1～3丁目
第九小学校	砂川町1丁目31～56、2丁目1～64、3丁目1～25、4丁目1～47、5丁目15(2～3)、16～20、上砂町2丁目9～45、3丁目12～61、4丁目1～41、一番町1丁目41～61、2丁目1～13、4丁目1～16
第十小学校	柏町1・2丁目、砂川町1丁目1～30、57～67、5丁目1～14、15(1・4～6)、21～54、6丁目1～3、4(1～10)、5～26、泉町1156
けやき台小学校	若葉町1・2丁目
西砂小学校	一番町6丁目18～29、西砂町1～7丁目(全町)
南砂小学校	栄町1丁目6～39、2丁目1～43、47～69、3丁目30～63
若葉小学校	若葉町3・4丁目
幸小学校	幸町4～6丁目
松中小学校	一番町2丁目14～49、3丁目、4丁目17～73、5丁目、6丁目1～17
大山小学校	砂川町2丁目65～71、上砂町1丁目、2丁目1～8、3丁目1～11、一番町1丁目1～40
柏小学校	柏町3～5丁目、砂川町6丁目4(11～13)、27～48、7丁目1～39(4を除く)、51～55
上砂川小学校	砂川町3丁目26～47、4丁目48～72、7丁目4、40～50、56～60、8丁目、上砂町4丁目42～56、5～7丁目
新生小学校	富士見町3丁目10～21、6・7丁目
立川第一中学校	第一小学校・第四小学校区
立川第二中学校	第二小学校・第五小学校・南砂小学校区
立川第三中学校	第三小学校・第六小学校・第七小学校区
立川第四中学校	幸小学校・柏小学校区
立川第五中学校	第九小学校・大山小学校・上砂川小学校区
立川第六中学校	第八小学校・第十小学校区
立川第七中学校	西砂小学校・松中小学校区
立川第八中学校	新生小学校区
立川第九中学校	けやき台小学校・若葉小学校区